

THANKS

(VOL. 199)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成26年1月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-0043
埼玉県所沢市弥生町1792-10
TEL:04-2907-1715
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

あけましておめでとうございます

「50代」に突入した昨年のテーマは、「アンチエイジング」。
年齢に負けない、若い身体づくりに励みたいと思ったのですが・・・
結果的には、体重は増加し、運動していても身体が重くて、なかなか動けません。
テニスの試合でも、勝てる確率が減少してしまいました。
地方出張が多く、不摂生が続く毎日。
ちょっと無謀なテーマだったと反省しています。
さて、今年は・・・
無理に若ぶらないで、年齢相応のテーマにしてみたいと思います。
ズバリ、「メンタル強化！」。
スポーツでも、仕事でも大事ですよ。
技術や体力で劣っていても、精神力が強ければ、結構、いい勝負ができますから。
「落ち着き」「集中」「あきらめない心」「楽しむ心」・・・
磨いてみたいと思います。

特集

「四字熟語から学ぶ仕事における心構え⑭」

今、本誌では「四字熟語」を参考にしながら、私がコンサルティングを通して「こんなことが大事では・・・」と思うことを紹介しています。
題して、「四字熟語から学ぶ仕事における心構え」。
カルタ風に「あ」からスタートし、いよいよ今回で最終回。
今回は「る」で始まる熟語からです。

る：「縷縷綿綿（るるめんめん）」

<意味>

中身のない話が、いつまでもだらだらと続くこと。
くどくどと細かいことまで話すこと。
「縷縷」は、こまごまと詳細にわたって話す様子。
「綿綿」は、ずっと続いていて絶えない様子。

<使い方>

談話は縷々綿々として尽きず、それからそれと興に乗じて種種いろいろな昔話しも出る。

・・・幸田露伴 『不安』

私がコンサルタントになった時、最初に与えられた仕事は、議事録を書くことです。お客様とのミーティングに参加しても、発言をせずに、ひたすら議事録を書くのみ。「全ての会話を書き残す」ことが基本でしたので、2時間程度の会議でも、議事録は15枚近くに及びます。終わると、もうグッタリです。

その時に痛感したのは、議事録には、「書きやすい人」と「書きにくい人」がいるということ。

「書きやすい人」は、きちんとポイントを整理して発言してくれる人。

「私は、××さんの意見に賛成です。なぜならば・・・」

「私は2つ質問があります。一つ目は・・・」

このように話をしてくれると、議事録はしっかり整理して書くことができます。

一方、「書きにくい人」は、ダラダラ話をする人。

「いったい、この人は何を言いたいのか？」

私としても、一生懸命聴きとって、書いているのですが、まとまりがありません。

最後に、「ということで▲▲です」と結論を言ってくれるならまだマシですが、最後まで、「????」の人も結構います。

人前で話をする注意すべきことは、「短く話す」ことです。

ただし、「短く」には、以下のようないろいろな意味があります。

●ひとつの文を短くする

「が、」「でして、」などの接続詞で続けないこと。

話を続けたい場合は、「。」で区切って、「しかし」「そして」「だから」等の接続詞で、新しい文を続けること。

一文の目安としては、1分間に「。」を6~7つ入れることとされています。

つまり、10秒に一度くらいは文章を区切ります。

●発言時間を短くする

会議で、発言する時は、短く話すことを心がけましょう。

1分くらいが限度です。

それ以上、続けて話をすると、伝えたいことがぼやけてしまいます。

●発表時間を短くする

最近では、スライドを活用した会議が増えているので、資料の配布は少なくなりましたが、以前は、資料に書いてあることを、棒読みする人が大勢いました。

書いてあることは、読めばわかります。

ポイントを絞って、本当に言いたい点を強調する方が、聞き手にインパクトを与られます。

れ：「冷汗三斗（れいかんさんと）」

<意味>

あまりの恐怖や恥ずかしさに冷や汗をかくこと。

突然、思いもよらぬ出来事に遭遇してうろたえること。

一般的には、「冷や汗三斗」という。

「斗」は、昔の計量単位で、「三斗」は量の多いことのたとえ。

<使い方>

その時期のなつかしい思い出の中にも、たった一つ、冷汗三斗の、生涯わすれられぬ悲惨なくじりがあったのです。

・・・太宰治 『人間失格』

私が研修の仕事を始めたばかりの頃の話です。

ある研修をしていたら、受講生の視線が、私の下半身に妙に集中している気がしました。

「もしや」と思って、下を見たら案の定、ズボンのファスナーが全開です。

受講生の約半分は女性の人たち。

「マズイ」と思って、急いでファスナーを引き上げましたが、その手は黄色のチョークを握ったまま。

濃紺のズボンの「あそこ」に、黄色の粉がベッタリ。

見るも無残な光景です。

今の私だったら、そんな状況でも、とっさに「笑い」に変える余裕がありますが、当時はまだ、ウブな青年講師。

恥ずかしさで汗ビッショリ！

「早く、この場から逃げ出したい！」という気持ちでいっぱいでした。

なんとか研修は済ませましたが、何を話したのかよく覚えていません。

思いもよらぬ出来事に遭遇することは、誰だってありますよね。

「いかがわしい店の割引券をポケットに入れたままクリーニングに出してしまい、とても大事なもののように入袋に入れられて戻ってきてしまった・・・」

先日、友達から聞いた話です。（私ではありません!!!）

奥さんから問い詰められ、一生懸命言い訳したものの、結局、最終的には、翌月からのお小遣いが半分になってしまったそうです。

焦りから余計なことをしてしまい、状況を更に悪化させてしまう・・・

よく聞く話です。

本当は、そういう時こそ冷静に対応すべきなのですが、口で言うほど簡単なことではありません。

うろたえてしまったら、もはや手遅れ。

やはり、そういうことがないように、日頃から注意しておくことが肝心なのでしょう。

わ：「和魂洋才（わこんようさい）」

<意味>

西洋の学問を学び取りながらも日本固有の精神は失わないこと。
日本人の心を持って、西洋の学問・知識を消化し、活用していくこと。

<使い方>

日本の国家社会で有用の材となるには、和魂洋才でなくてはなりません。
・・・森鷗外 『なのりそ』

日本人は昔から、和魂洋才が上手な民族と言われてきました。
食文化等を考えると、確かに「その通り」と思います。
例えば、アンパン。
言わずと知れた日本の代表的な菓子パンですが、和魂洋才の典型ですよ。
パンという西洋の食材に、アンコを入れるなんて！
一体、誰が考えたのか？
すごい発明です。

仕事をしていると、よく「自分のやり方は・・・」という言葉が発する人を見かけます。
自分のやり方に自信を持つことは良いことです。
自信が無いと、話を聞いていても説得力を感じませんから。
しかし、あまりにも、それに固執してしまうと進歩がありません。

どんどん能力を高めて行ける人は、必ず以下の2つを持っています。
●いろいろなことに興味を示す好奇心
●自らのやり方を変えて行くことができる柔軟性
視野が狭く、石頭ではダメなのです。

昔、パソコンが世の中に出始めた頃、「そんなものを使ったら、人間が考えなくなってバカになる」と言う人がいました。
しかし、今、もしそのようなことを言ったら、その人こそ「バカ」と言われるでしょう。
パソコンを使えば、それまで頭の中だけでは、とても考えられなかったことも見えるようになるのですから。

中日ドラゴンズのGM（ゼネラルマネジャー）に就任した落合博満氏。
現役時代から「オレ流」と言われるくらい、独自のスタイルを貫いてきました。
確かに、GMになったの初仕事である契約更改交渉でも、従来のスタイルとは明らかに違うやり方でした。
しかし、それは、たぶん、落合氏が世界中のプロスポーツを見ての結論でしょう。
サッカー、バスケットボール、アメリカンフットボール・・・
広い視野から日本のプロ野球を見た時に、矛盾点が沢山見えてきたのだと思います。

「オレ流」も良いですけど、「Aさん流」や「Bさん流」にも、目を配りましょう。
そして、必要であれば、「オレ流」をどんどん変えて行きましょう。
いろいろな人の「良いところ」をどれだけ吸収できるかが、成長のカギですから。

「四字熟語シリーズ」の終わりに・・・

皆さんは、「四字熟語」を見て、「こんな言葉があったのか!」とか、「こんな意味だったのか!」という発見はありませんでしたか?
私自身、知らない言葉がたくさんありました。
ただし、その意味を知って「ふ～ん」と納得しているだけだったら、それで終わり。
博学にはなりますが、生活や仕事に活かすことはできません。

以前特集した「ことわざ」にしても、今回の「四字熟語」にしても、長年、語り継がれている言葉の意味は重いです。
大切なことは、「自分に当てはめたらどうか」を考えてみることに。
それが、自分自身を反省するヒントになるのです。